

## 本号の岩手医大歯学会雑誌から

この頁は……

本号に掲載されている論文の内容を手っとり早く把握して頂き、歯科臨床との関わりを紹介する頁です。各論文の指導教授あるいは、これに準じる方に紹介の労をとっていただきました。本号のもう一つの目次として御利用下さい。

### Magnetic resonance imaging による顎関節症患者の下顎頭形態変化について

伊藤 紫 織

顎関節の画像診断には、従来、硬組織の形態変化を見る目的で単純X線撮影法や断層X線撮影、X線CT等が用いられている。軟組織とくに関節円板の状態を知るためには顎関節腔の造影や透視が行われている。この研究では核磁気共鳴装置を使って撮像し、硬組織、軟組織が同時撮影が可能でその画像から顎関節内障、下顎頭の形態変化および動態異常の診断にMRIが有効であることが示唆された。(本号149頁)(坂巻 公男 記)

### *Streptococcus anginosus* が産生するマイトジェニックファクターの部分精製

佐々木 実 他3名

近年、レンサ球菌属の細菌が、マイトジェニックファクター(MF)を産生することが報告され、炎症性疾患との関連で話題になっている。とくに、*Streptococcus pyogenes* が産生する発赤毒素は、スーパー抗原とも呼ばれ多彩な生物活性を有することが報告されている。本論文では、“*S. milleri*”グループに属するレンサ球菌で、歯肉膿瘍、歯周ポケットなどから分離される*S. anginosus* が、菌体外にMFを産生することを見いだしたので、その部分精製法について検討した。

(本号164頁)(金子 克 記)

### GABA<sub>A</sub>-receptor 機能に対する lidocaine の阻害効果ならびに 阻害様式と diazepam の干渉作用

栃内 明 啓

痙攣と関係があるGABA<sub>A</sub>-receptorを用いてlidocaine(LIDO)による阻害効果、及び阻害様式を細胞内記録法で調べた。阻害効果は用量依存性に生じ、阻害様式はnon-competitiveであることが示唆された。さらに、抗痙攣薬のdiazepam(DZ)とLIDOの干渉作用を、上記receptorで調べてみるとLIDOによる阻害効果はDZによって回復し、またDZを先行投与するとLIDOの阻害効果が軽減

することがわかった。以上の結果より、LIDO と DZ の GABA<sub>A</sub>-receptor での結合部位は、receptor のアロステリック site にあり、部分的に関連しあっていることが示唆された。

(本号 169 頁) (鈴木 隆 記)



永久歯列叢生に影響をおよぼす因子分析ならびにその治療方法に関する研究

野 坂 久美子 他 3 名

最近、小児における歯列不正、中でも、叢生歯列の急増が注目されてきている。その原因として、顎骨の発育の悪さを指摘しているものが大勢を占めている。しかし今回の研究から、叢生歯列の形成には、女子では明らかに歯の大きさが、男子では、上顎では歯列弓あるいは Basal arch の幅径が、下顎では歯の大きさが関与し、男女間で明らかに異なるものであった。一方、叢生歯列の中で、乳歯の早期喪失があった場合は、保険や歯列弓の拡大は、叢生歯列減少の一手段になるものと考えられた。

(本号 179 頁) (野坂久美子 記)



シナプス伝達に対する局所麻酔剤の阻害効果

染 井 宏 祐 他 4 名

局所麻酔剤はインパルスの伝導を阻害するより低濃度でシナプス伝達を阻害するとの報告があるために、ウシガエル交感神経節を用い、細胞外、細胞内記録法によって局所麻酔剤の阻害の強さとシナプスでの作用部位を調べた。阻害の強さはジブカイン $\geq$ テトラカイン $>$ プロカイン $\geq$ リドカインとなり、局所麻酔剤の疎水性の大きさによることが示唆された。また、局所麻酔剤の作用部位は用量-作用曲線の解析よりシナプス後部膜のニコチニック ACh レセプターのアロステリックに結合して、シナプス伝達を阻害することが分かった。

(本号 192 頁) (染井 宏祐 記)